

行政視察報告書

議会運営委員会行政視察		平成30年10月9日(火)～10日(水)
視察先 及び 視察事項	・平成30年10月9日(火) 埼玉県所沢市議会	1 議会報告会について(実施状況、課題とその対策)
		2 ワールドカフェ「みみ丸カフェ」について(実施状況、課題とその対策)
		3 議会評価について(実施状況、課題とその対策)
		4 専門的知見の活用について(実施状況、課題とその対策)
		5 議会施設について(議場・委員会室・会派控室など諸室及び設備等の視察含)
	・平成30年10月10日(水) 埼玉県新座市議会	1 新庁舎議会施設について(議会施設の視察含)
		(1) 施設の計画、設計に当たっての市議会の関わり方(要望等)
		(2) 施設整備の基本方針・設計方針
		(3) 各施設(諸室)の概要(面積・設備)

1、 所沢市議会

荻野議長、石本議運長、城下広報公聴委員長より説明を受ける。

- ① 議会報告会については5月、11月の年2回8人編成の班で2か所にて開催、必ず全議員が一度は参加する仕組み。議案審議の内容などを報告し、意見交換を行っている。時間を正確に区切り運営。

席の配置を、教室スタイルからカフェスタイルに変えて、意見交換が活発になったとの事。

若年層と女性の参加者が少ない。参加者数の減少は課題。

- ② ワールドカフェ『みみ丸カフェ』若年層へのアプローチとして40歳以下の無作為抽出市民へ800名対象に案内状を送付、その他に市内在住高校生、大学生で参加者を選定。所沢市の将来などについてフランクな意見交換の場として開催。

ファシリテーターは早稲田大の教授、各グループの進行役は大学生、議員は10テーブルに1人ずつ参加。BGM、お茶のサービスなど雰囲気づくりも行った。

参加者の意見をボードに貼りだした実物を見せてもらったが、様々な想いが書かれていた。

具体的に何らかの結論を出す、というのではなく、議会を身近に感じてもらう為の一つの方法だとの説明。

- ③ 議会評価、市議会が実施する事業、議会改革について、議会運営委員長及び広報公聴委員長が評価を行い、HP 上に公開するもの。29 年度の議会事業評価表 7 件を資料にいただく。
- ④ 専門的知見の活用、政策研究審議会が常設されており、大学教授や前副市長などで構成されている。各委員会からの諮問を受け、研究の後、発表説明会を開催。政策形成へ生かしていく。
- ⑤ 議会施設について説明を受け、議場、委員会室、議員控室などを見学。明るく広い本会議場であったが、傍聴席との距離の開きは大きかった。

*議会報告会については、本市と同様の課題が見えた。定例会での審議内容についての説明は、ともに工夫が必要だと思われる。凶悪念層へのアプローチとして、『みみ丸カフェ』は参考になる。本市で実施している高校生、大学生との交流事業の方式に工夫を加える参考になった。議会評価は、必要性を感じなかった。専門的知見の活用を含め、大学などの研究機関との提携は、今後一層必要になると感じた。

各種の事業を行うための議会予算は、議会費として当初予算に計上していく事が今後は本市に於いても必要なことだと感じた。大学生のインターンシップについても 3 月、9 月に 2 名ずつ会派で受け入れをしている説明があり、今後は楽しみな事業であると感じた。

2、 新座市議会

新庁舎建設に関する議会の取り組み

- ① 市議会の関わりについては、新庁舎建設特別委員会を設置して意見、要望を市に行った。特別市民意見を把握するための活動はなく、視察などを通じ意見をまとめた。
- ② 基本方針『訪れたすべての人に親しまれる安心で快適な庁舎』（パンフより）
傍聴しやすさに」配慮した本会議場、4 常任委員会の同時開催が可能な委員会室、議員控室から議員室にして執務環境を整えた議員室、傍聴者の待合、休憩スペースとしてのホワイエ、それを利用して開かれた議会図書館を目指しているオープン書架、プライバシーを重視した相談室の設置など、様々な工夫が見られた。

ICT 化の推進を視野に入れた本会議場、委員会室は WIFI 環境も整っており難聴者支援設備も完備されている。本会議場に設置されたプロジェクター用スクリーンは、一般質問時の議員側の資料提示のみならず、理事者の答弁時にも活用され

ている。議員席のボタンと連動する電子採決設備の導入は、経費節減のため未実施、将来的な導入を考慮してスペースのみを残している。

親子傍聴室という個室が傍聴席の一部に設置されている。5 m²ほどのスペースだが、外部と隔離されているために臨場感に欠ける。ここまで来て使う人はいるのかな、と感じた。

傍聴席と議席は 30cm の段差しかなく、傍聴者からは議場が身近に感じられると思う反面、最後列の議員は、傍聴席に気を取られないか心配になった。

会派の構成人数の変更に対応できる可動間仕切りの防音性が確認できた。いずれの項目も、本市のこれからの議場の在り方について貴重な資料となった。

平成30年10月11日

松本市議会議長 上條 俊道 様

松本市議会議長 上條 俊道